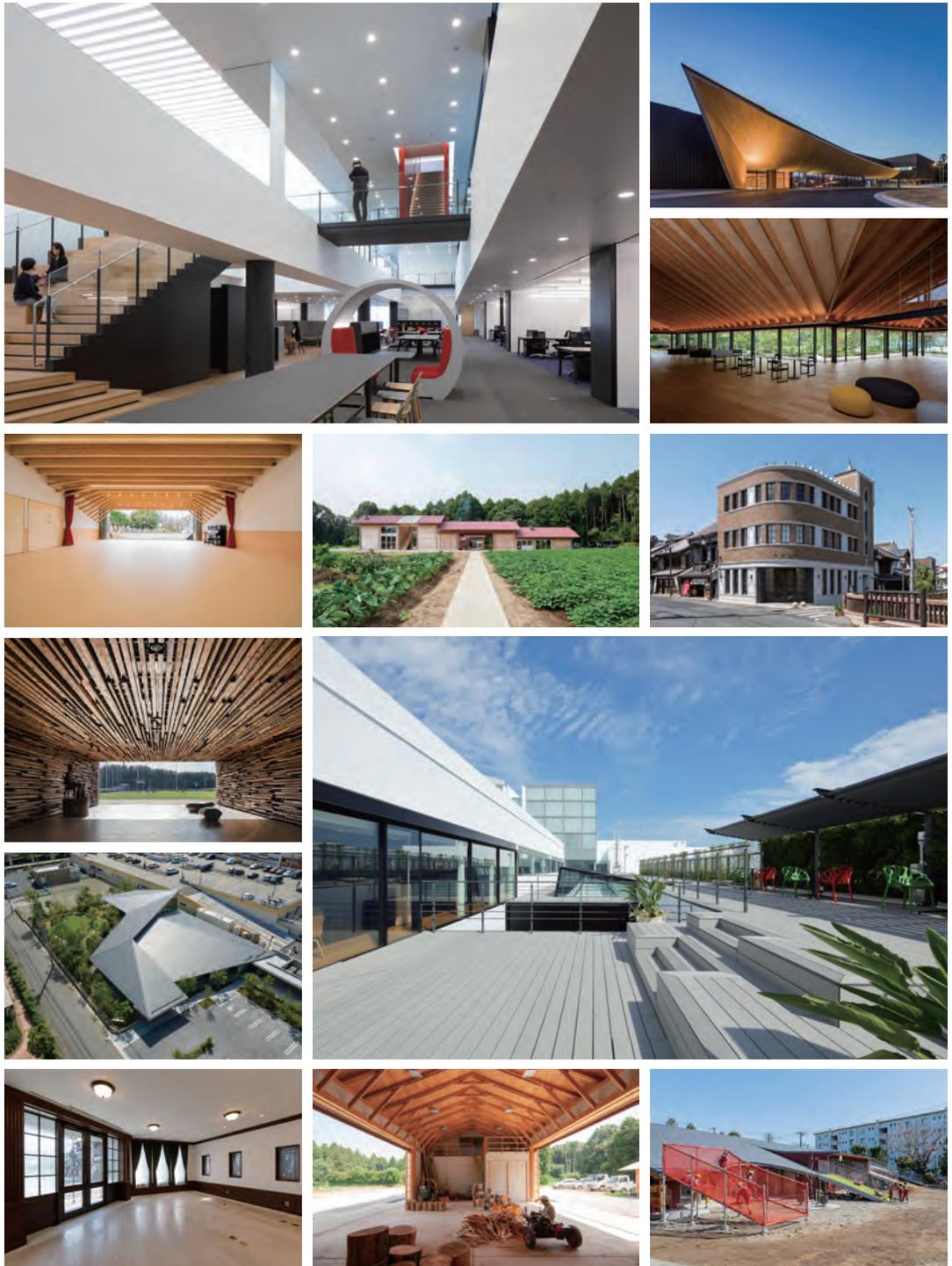


第27回（令和2年度）

千葉県建築文化賞 表彰作品集



主催：  千葉県

共催：  一般社団法人 千葉県建築士会

千葉県建築文化賞について



千葉県知事 森田 健作

令和2年度の千葉県建築文化賞に多くの皆様から御応募をいただき、誠にありがとうございました。

千葉県建築文化賞は、建築文化や居住環境に対する県民の意識の高揚と、うるおいとやすらぎに満ちた快適なまちづくりを推進することを目的に平成6年度に創設されました。

第27回となる今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響から、例年よりひと月ほど募集期間が短い中、59点もの御応募をいただきました。その結果、千葉県建築文化賞検討会議による検討内容を踏まえ、最優秀賞1点、優秀賞5点及び入賞3点の合計9点を選定したところです。

受賞作品は、新築の建物から既存ストックの有効活用と多岐にわたり、周辺環境との調和や利用者間の交流を誘発するもの、防災面への配慮、建築主の想いを体現したものなど、いずれも千葉の魅力を高め、地域の活性化に貢献する素晴らしい作品ばかりです。これらの建築物が、地域社会の中で親しまれ、本県の建築文化の向上と、より良いまちづくりの推進に寄与していくことを心から期待しています。

今後とも県では、皆様と共に、首都圏、日本をリードし、未来の千葉を担う次世代の子どもたちが誇れるような千葉県の実現に向け、全力で取り組んでまいりますので、引き続き御理解と御協力をお願いいたします。

結びに、受賞者並びに御応募いただいた皆様のますますの御活躍をお祈り申し上げまして、あいさつといたします。

令和3年3月

目次

千葉県建築文化賞について	1	むつざわスマートウェルネスタウン・道の駅・つどいの郷	9
第27回千葉県建築文化賞選考経過と総評	2	銚子駅舎	9
竹中技術研究所リニューアルプロジェクト	3	車窓のほっこりする家～松波の家#2	10
丘の幼稚園（まこと第2幼稚園）	4	選考の基準	10
高円宮記念JFA夢フィールド	5	第27回千葉県建築文化賞検討会議	10
新柏クリニック糖尿病みらい	6	千葉県建築文化賞の実績（応募点数・受賞作品数）一覧	
千葉商船ビル	7	受賞作品の位置	
栗源第一薪炭供給所(1K)	8		

第27回千葉県建築文化賞選考経過と総評

応募59点から9点授賞



(選考経過)

千葉県建築文化賞検討会議委員長 北原 理雄

第27回千葉県建築文化賞は令和2年7月の検討会議で募集要領を定め、8月上旬から9月下旬まで応募を受け付け、総数59点の応募をいただいた。(部門別内訳は下表のとおり。)

第1次選考はすべての応募用紙を一堂に展示し、その記載と写真をもとに投票を行い、一般建築物10点、住宅2点を選んだ。次いで11月の3日間をかけ、現地を訪問し、建築物の説明を伺いながら詳細に調査した。第2次選考は12月開催の検討会議で、現地調査の報告を踏まえて再度投票を行い、討議を重ねながら優秀な建築物を選んだ。

なお、今回も選考の公明性を保つため、委員と関係のある建築物が応募している場合は、そのことを確認したうえで、当該委員は討議に参加せず、票を投じないこととした。

その結果、最優秀賞1点、優秀賞5点、入賞3点を表彰候補作品として決定した。

今回は新型コロナウイルス感染症の影響で当初実施が危ぶまれたが、さまざまな対策を検討し、例年より1か月遅い8月上旬の募集開始に漕ぎつけることができた。短い募集期間にもかかわらず力のこもった作品に応募・推薦して下さった皆さまの熱意に、この場を借りて深く感謝します。

検討会議も座席の間隔を広くとり、一部オンライン参加を導入するなど、入念な感染防止策を講じての開催となった。募集から選考まで無事に終えることができたのは、前例のない煩瑣な準備に奔走していただいた事務局のおかげである。

募集部門	選考過程	応募総数	第1次選考・現地調査	表彰候補作品選定		
				最優秀賞	優秀賞	入賞
一般建築物		45	10	1	5	2
住宅		14	2	0	0	1
合計		59	12	1	5	3

(総評)

一般建築物の部への応募は45点であり、事務所、公共施設、幼稚園などを中心に、興味深い作品が見られた。

最優秀賞の「竹中技術研究所リニューアルプロジェクト」は、1993年に竣工した研究所の既存中庭部分に屋根をかけて内部化し、生みだされた中央エリアに向けて各研究室を開き、研究者の異分野交流と柔軟な働き方に対応するワークスペースの創出をはかったものである。他企業にも開かれたイノベーションスペースや地域の生態系再現と防災性に配慮した外構などと併せ、良質なデザイン性を備えたりニューアルが高く評価された。

優秀賞の「丘の幼稚園(まこと第2幼稚園)」は、1960年代に開発された住宅団地のなかに立地する幼稚園の建て替えである。園庭から立ちあがる片流れ屋根が、園児たちに遊び場の「丘」を提供し、その下に保育室とホールが庭に面して並んでいる。庭の先には団地内の緑地がつづく。子供たちが遊びを通して学び成長する場が魅力的にしつらえられている。

「高円宮記念JFA夢フィールド」は、クラブハウス、フットサルアリーナ、4面のピッチなどで構成される公園施設であり、地域のより所にもなる日本サッカー界の拠点として建設された。シャープな反りをもつ深い大庇、木ルーバーが視線をピッチへと誘うエントランスホールなど、シンボル性の高いデザインがみごとである。

「新柏クリニック糖尿病みらい」は、木材を豊富に使った混構造平家建ての糖尿病専門クリニックである。南側に雑木林を彷彿させる庭が配され、高い勾配天井に包まれた待合からは、ガラス壁一面にあふれる緑を満喫できる。ともに授賞作である「新柏クリニック」「めぐりの庭」と一体になって、地域の景観形成にも一役買っている。

「千葉商船ビル」は、佐原の町並み保存地区、香取街道と小野川が交差する角地に建つ3階建ての洋風ビルである。昭和初期の洋館をモデルに、周辺の町並みにスケールを合わせながら、当時の様式・工法を再現している。伝統的町並みに好感のもてる点景を生みだしており、建築主の想いと設計者・施工者の努力に敬意を表したい。

「栗源第一薪炭供給所(1K)」は、荒れた森の間伐、薪の生産を障害者や高齢者で行うための施設である。里山に囲まれた敷地には、切妻三段屋根の主屋とサツマイモ畑、スイートポテト販売所、ジャム製造小屋などが配置されている。持続可能な環境づくりを視野に入れ、福祉と農林業を組み合わせた意欲的な試みである。

入賞の「むつぎわスマートウェルネスタウン・道の駅・つどいの郷」は、水平性を強調した軽快な平家建てに、直売所、温浴施設などを納めている。隣接して防災広場と備蓄倉庫を設置し、天然ガスによるコージェネレーションシステムを備えており、2019年の台風災害時には町民に無料でシャワーを提供したとのことである。「銚子駅舎」は、地場産の木材を活用した建て替えであり、水平の軒、広い高窓、駅前広場に面して開いた案内所と店舗などにより、ゲート性を感じさせる建物である。屋外広場につながるコンコースには駅ピアノが置かれ、地域交流の場となっている。

一般建築物の部

住宅の部

住宅の部の応募は14点であり、昨年度(30点)の半分に満たなかった。新型コロナウイルス感染症の影響で、個人生活の場への調査受け入れを躊躇された方が多かったのかもしれない。応募していただいた皆さまに改めて感謝するとともに、次回、多数の方が応募できる状況になることを切に願っている。

入賞の「車窓のほっこりする家~松波の家#2」は、線路ぎわに建つ2階建て住宅である。プライバシーを守りながら自然光と風を取り込み、車窓からの視線に対しても潤いのある景観を提供するように心を配っている。